



全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライタラス

第74号 2018.3.20  
(年2回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集/ふるさやらネットワーク

〒184-0015 東京都小金井市貫井北町1-14-5-101

TEL:042-386-8355 / FAX:042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 特集・イマドキの棚田プロジェクト

保全



奈良県明日香村を走るMICHIMO(超小型モビリティー2人乗り電気自動車)。観光客がレンタルして、古都と棚田の風景を楽しんでいる



インバウンド(外国人の訪日旅行)が進む奈良県明日香村。イギリス人もはせ干し体験に大はしゃぎ

(写真提供:NPO法人明日香の未来を作る会 あすか夢耕社)

特集紹介:奈良県明日香村/長崎県波  
佐見町/静岡県久留美木棚田/千葉県  
鴨川市/佐賀県玄海町/福岡県東峰村  
[地域文化と棚田⑧]長野県小谷村ほか

特

集

# イマドキの棚田プロジェクト

保全

「飛鳥川 明日も渡らむ石橋の  
遠き心は想ほえむかも」

万葉集にも詠まれた飛鳥川に渡された飛び石の風景が、いまもひつそり残る明日香村は、奈良県の中央部に位置し、日本の中央集権国家誕生の地であることから「日本の心の故郷」とも言われています。

明日香村の棚田オーナー制度は、23年前の1995年から始めた老舗です。23行政によって導入され、当初は実行委員会形式で運営をして来ましたが、持続可能な発展を目指して2007年にNPO法人化して今日に至っています。制度を導入して20年以上経過すると、困難な課題が出現し、いずれも容易に解決出来ませんが、イマドキの棚田プロジェクトの幾つかを紹介します。NPOに改組以後に取り組んだ主なものは次の4点。



自分たちが作った案山子に喜ぶアメリカ人



ベリー提督の子孫と筆者



集落の長老から稲の束ね方を教わるイギリス人

一、地域住民の労働力軽減  
一、ウェブを通じた情報発信  
一、法人収支の改善  
一、関係団体との連携事業の拡大

紙面の都合上、詳細な紹介は出来ませんが、トピックスを紹介すると、地

域の労働力軽減策として、ベテランオーナーを起用した農作業指導者制度や、棚田で行っていた耕摺り作業のアウトソーシング化。ホームページ(2018年にスマホ対応へのリニューアル実施)やフェイスブックを使った情報発信。

収支の改善では地域住民に支払う日

当を可能な限り維持させる目的で、彼岸花祭りなど、大勢の集客が見込めるイベントで物販などを積極的に行って収入を増やす。因みに彼岸花祭りの2016年の物販収入が10万円に対し、2017年は約50万円と大幅に収入が増えました。これは祭りの来訪者に「時間」「景観」「空間」を提供できる仕組みを設けたことが要因。

その他に、明日香村商工会の下部組織である飛鳥ニューツーリズム協議会は、教育旅行を中心に行家ステイ体験、他の各種体験を提供する組織で、このニューツーリズム協議会と連携し、外国人の棚田オーナー（作業は田植えと稲刈りのみ）や、案山子づくり体験、草刈体験等でアメリカやイギリス、更には香港から述べ100人規模の人を受け入れることが出来ました。

文化庁は、2016年に「キトラ古墳」の、極彩色壁画を保存・管理するための施設『キトラ古墳壁画体験館』をオープン。明日香村でも2014年10月から、トピックスを紹介すると、地

月から、超小型モビリティ（2人乗り電気自動車）「MICHIMO」のレンタルを開始して、飛鳥地方の観光客誘致に注力しています（表紙写真上参照）。

とはいっても、棚田に残された課題は日本が抱える最大の課題でもある人口減少にどれだけ抗えるかといつた段階になりました。棚田オーナー制度を活用してもなお、ここ数年は耕作放棄地が漸増しています。保全が困難になりつつある棚田を、最大限有効に活用できるようにしてゆくには、先人が残してきた智恵と、これを引き継ぐ現代人の英知を集める必要があるよう思います。



稻刈りを楽しむイギリス人

# 鬼木棚田

Onigi Tanada

～日本棚田百選～



全国棚田サミット会場でも上映されていた町PR動画  
「波佐見町は永遠の輝き」のワンシーンより  
(下、右から2番目も)

日曜日の早朝、静寂の中にバイクが鳴る。普段、草刈り機に代表される農機具の作業音に耳慣れた鬼木棚田に珍しい騒音である。後になって分かったのだが、PR動画のロケ中だったとのこと。この動画の制作に関わったのは、鬼木棚田の農家で、案山子づくり名人“渋江さん”一家である。

渋江家のユーモアとともにづくりのDNAを引き継いだ息子たちは映像作家

## ALL波佐見による町PR動画「波佐見町は永遠の輝き」 ～都市と地元の絆に支えられて～

長崎県波佐見町 鬼木棚田協議会 石橋万里子



PR動画メイキング中（左が渋江監督）



左は音楽を担当した渋江裕介さん（PONDLOW ギターボーカル）。中央が棚田農家の父、渋江耕造さん（鬼木棚田自治会長）。右がPR動画監修を務めた渋江修平さん（映像ディレクター）



ここであることを願っています



空き工房パンク名刺

やミュージシャンとして東京で活躍している。

インターネットの普及で遠くの人に情報が伝達できるようになった。わざわざ出掛けなくても済むのである。しかし、わざわざ出掛けようと思わせるには視覚に訴える技が有効である。

さて、先述のPR動画について。波佐見町では移住・定住施策の一環として、町の魅力を映像化した。ドラマ仕立てに代表的な観光スポットのほか波佐見らしく陶磁器の窯元も紹介している。

なかでも青々とした美しい鬼木棚田が今流行りのドローンで階段状の石垣の広がりを見せる場面は印象的である。

しかし、このPR動画が特筆すべき点は、監督から出演者、主題歌に至るまで全て波佐見町ゆかりの人を作りあげていること。都会に出て行つても、出て行かなくても、地元のために何かをしたい！と結集できるのが素晴らしい。楽しいことが大好きな町民性の現れもある。PR動画の波及効果は検証された訳ではないが、ロケ地としてテレビ等の取材が増えたような気がする。

学生の頃は登り坂のつらい思い出しかない棚田に観光客が来るなんて思いもしなかつた。日本の棚田百選に認定されたことで一変した。物事にはきっかけというものが必要である。訪れてみたいと思わせるには、自分たちも魅かれなければならない。

都会組には郷愁よりも、帰省のたびに進化する故郷にワクワクするみたいと思わせるには、自分たちも魅かれなければならない。

都会組には郷愁よりも、帰省のたびに進化する故郷にワクワクするみたいと思わせるには、自分たちも魅かれなければならない。

力に気づかなければならない。

協力隊の任期中にリノベーションした工房を拠点に活動を続けているが、相談者に対しても自らの経験を活かしている。住まいを変えるには土地柄を知らない人には使われなくなつた作業場付き住宅を賃貸物件として紹介している。

協力隊の任期中にリノベーションした工房を拠点に活動を続けているが、相談者に対しても自らの経験を活かしている。住まいを変えるには土地柄を知りたい。住まいを変えるには土地柄を知りたい。住まいを変えるには土地柄を知りたい。

は、移住者だからこそその本音のアドバイスができる。食品サンプルの作家さんやドイツ人の陶芸作家さんが移り住み始めた。

都会と地元が入り混じったハイブリッドな人の活動が波佐見町を支えてい

るのではないか。今後は農業分野でも都会組が帰つてきてくれないかと淡い期待を寄せている。

の若い人である。

おじさん、おばさんにはできな

い発想力と行動力がある。地元組にはそれを受け入れる寛容さ

とちょっとの手助けがあればよ

い。そうやって波佐見焼も知名度を上げている。

また、2015年から空き工房パンクが動き出した。卒業した地域おこし協力隊の発案である。波佐見町でものづくりを通して、街に使われたいという人に使われなくなつた作業場付き住

宅を賃貸物件として紹介している。

協力隊の任期中にリノベーションした工房を拠点に活動を続けているが、相談者に対しても自らの経験を活かしている。住まいを変えるには土地柄を知りたい。住まいを変えるには土地柄を知りたい。



空き家をワークショップに活用！  
陶器のブローチづくり



いな さ

## 浜松・棚田の米作りプロジェクト「引佐耕作隊」

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 准教授 船戸修一



### 「おんな城主 直虎」のロケ地で 注目

久留女木の棚田は、浜松市北区引佐町の北東部、標高250mに位置しています。総面積が約7ha、約800枚の田んぼがあると言われています。この棚田は、その美しい景観から、国の「日本棚田百選」、県の「静岡県景観賞」に選ばれています。昨年は、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」のロケ地としても使用され、浜松の観光名所としても注目されています。

近年、久留女木の棚田では、農家の高齢化や後継者不足から耕作放棄地が増加し、棚田の約4分の3が耕作放棄地であると言われています。昨年、私と学生たちによる久留女木の棚田の地権者を対象に実施した調査では、棚田の課題として「棚田の耕作放棄地が増えている」ことをあげる回答者が14人中13人いました。様々な棚田の課題がある中で、最も回答が多かったのは、この「耕作放棄地の増加」でした。

### 棚田の5つの役割をデザイン化

そもそも棚田は、食糧としての米を生産することだけではありません。棚田で米作りが行われることによって、その美しい風景や農村景観を維持することにもなります。このような景観は、そこを訪れる人たちに癒しや安らぎをもたらしてくれます。

また、棚田が水田として機能することによって野生動物の生息場所にもなり、生物多様性の維持にも寄与しま

す。そして棚田が水田として機能することによって雨水や湧き水が貯えられ、天然のダムの役割を果たしています。このような「水源かん養機能」によって洪水の防止にもつながります。

さらに、棚田が都市に住む人たちにとっても保健・レクリエーションの場を提供するならば、棚田は、都市農村交流の場所にもなり得ます。このように棚田は「多面的な機能」を有しています。

しかし、耕作放棄地が増加することによって、「棚田の多面的機能」が発揮されなくなると、地域住民だけではなく、都市部の人々も、その恩恵を受けられなくなることがあります。

そこで、以上のような久留女木の棚田の現状を踏まえ、地元浜松に位置する静岡文化芸術大学では、昨年度より「地域連携実践演習」という授業の一環として学生有志で「引佐耕作隊」を結成しました。今年度の活動は、学生5人で活動しています。

「引佐耕作隊」の取り組みとその狙いは、以下の4つです。

1つ目は、もともと耕作放棄地であった、3枚の棚田（500m<sup>2</sup>）を使い、地元農家の助言を得ながら米作りに取り組むことです。学生だけで行うのではなく、地元農家の協力を仰ぎながら活動に取り組むことを心がけています。

2つ目は、収穫した米を学生でパッケージデザインして商品化することです。本学には、デザイン学部があり、その学生も「引佐耕作隊」に参加して

います。よって、デザインを専攻する学生が米のデザインを担当することによって、学生が棚田での米作りに取り組む思いや考えを具現化することがで

きます。

3つ目は、その米を販売することによって利益を得ることです。往々にして棚田は条件不利農地と見なされ、そこでの米作りは採算が取れないと思われています。しかし、パッケージデザインを工夫することによって、消費者に少しでも高い値段で購入してもらうことは可能だと考えていました。

今年度は、1袋（300g）432円（税込）で520袋を販売しました。大学生協の売店だけでなく、市の商業施設でも販売することによって、本学の学生・教職員だけではなく、浜松の一般市民の方なども購入できるようになりました。その結果、1月15日から販売し、4日間で完売することができました。

4つ目は、収穫した米を「久留女木棚田の恵」という商品名にし、代表的な「棚田の多面的機能」を5つあげ、それを分かりやすく消費者に解説した商品パッケージを5種類作成しました。

それは、(1)食糧生産としての機能、(2)景観の維持機能、(3)生物多様性の維持機能、(4)水源かん養機能、(5)都市農村交流の場の提供、です。5種類のパッケージには、それぞれタグを付けて、その機能を説明しました（以下の図を参照してください）。このように「棚田の多面的機能」を消費者にアピ

## 静岡文化芸術大学の学生による

### 棚田の5つの役割

をパッケージに描きました！

1  
きれいな水と空気によって  
お米が育ちます。



2  
美しい景観が  
人々に癒し・安らぎ  
を与えます。



3  
多様な生き物に  
生息場所を提供します。



4  
水を蓄える  
ことによって  
天然のダムとなります。



5  
農村の人と都市の人との  
交流場になります。



「久留女木 棚田の恵」5種類の  
商品パッケージ

ールすることによって「環境保全米」として購入してもらうことを狙っています。

の維持を図るための活動として位置づけるところに「引佐耕作隊」の狙いがあります。

「引佐耕作隊」の狙いです。こうして久留女木の棚田を地域住民だけではなく、都市部の住民にとっての「公共財」として理解してもらうべく、将来にわたって棚田での米作りを持続していくような仕組みを作っていくたいと考えています。

以上のよう取り組みを通じて、棚田での米作りを単なる食糧生産活動ではなく、棚田をめぐる自然環境や景観



大山千枚田は棚田オーナー制度でも賑わう。「ごんべい」では、地元の財産「長狭米」をよりおいしく食べていただくために「もみ殻竈」での炊飯にこだわっている

民間からの提案

棚田のある中山間地域のみならず日本各地で自分たちの暮らす地域を元気にしていきたいと活性化に向けた取り組みがなされています。しかし、なかなか思い通りにできていないのも現実です。私たちも苦労しながらですが、目的達成にむけて棚田を中心とした中山間地域での活動を進めています。

# 地元の食にこだわった古民家レストラン

千葉県鴨川市 NPO法人大山千枚田保存会 理事長 石田三示



飲み物、「嶺岡チックオーブ」「ライスバーガー」はテイクアウトも可能。棚田俱楽部のデッキで棚田を見ながらの食事もできる

メニューは、「チコカタメーノ」の煮物の定食「嶺岡鍋定食」とそれをどんぶりにした「嶺岡ちっこ丼」。長狭米を自家製麺した「千枚田肉みそめん」。チコカタメーノが入った「嶺岡ちっこめん」や「和風だしの「千枚田と風味めん」。チコカタメーノの煮物をバテに焼いたものご飯で挟み込んだ「チコカタメーノバゲー」。それにおなじみの「おにぎり定食」

今回、登録されたのは「食に関する慣習・文化」なのです。これが文化遺産登録されるということは「和食」が、海外で知名度が上がっていることもあります。ですが、国内でそれが危機になつていても、文化の原点は地域の食であり、もつと原点は各家庭の食であると考えています。

また、NPOが営業するレストランはどうあるべきか、メニューにはでき

「スとか言  
は正式な  
もの」と  
んご通信  
カタメタ  
ています  
メニコ  
入れ、ビ  
れないも

財産はお米であり「長狭米」です。これをとにかくおいしく食べてもらうこと。ご飯はあらかじめ炊いておく必要があり、ご飯が切れた時をどうするか。また、地元の飲食店と競合しないこと。などなどいろいろ考えた末に、タンポポコーヒーをはじめとした飲み物と、もみ殻竈だきの長狭米のご飯と、長狭米の米麺を提供しています。で  
きる限り地域の旬の食材を使い、地域の味付けにこだわっています。そして、昔から農家で食べられていた食材にもこだわったメニューにしています。

「チツコカタメターノ」という財産

ここは、歴史的にも嶺岡牧との関わりの中で牛乳食の発祥地でもあります。

「チツコカタメターノ」という財産

す。下枚田の前の嶺岡山一帯は、吉宗のころからの嶺岡牧で「日本酪農発祥の地」です。これも私たちの大きな財産です。南房総はそんな歴史の中で酪農が盛んになり、牛乳食も盛んに食べられてきました。

その一つが初乳を固めたもので、一般には牛乳豆腐とか、カツテージチーズとか言われていますが、この地方では正式な名前はなく、「ちっこを固めたもの」と呼んでいました。それを「あんご通信」で紹介するときに「チツコカタメターノ」とし、今はそれで通っています。

メニューには、それをふんだんに取り入れ、どれも千枚田でなければ食べられないものになつたと思っています。

## 「こんべい」本膳料理の提供

ごんべいでは当初より古民家の畳敷きの和室を使い、地域の食材や調理法で鴨川ならではの和食の提供を目標にしてきました。今回、江戸時代中期の天明のお膳と食器が手に入りました。畠の部屋で銘々膳で地域の個性的な食文化を提供することに意義を見い出し、私たちも忘れていいきそう日本食文化を再現し、提供していくことを考えました。昨年より試験的に予約での提供をしてまいりました。

昭和の初期までは結婚式などの祝い事や葬儀なども自宅で行っており、お膳での食事の懐かしさを感じる方も多いうです。地域の習慣や食文化を念頭に置きながら畠の上での食事にこだわっていきたいと思います。

「ごんべい」本膳料理の提供

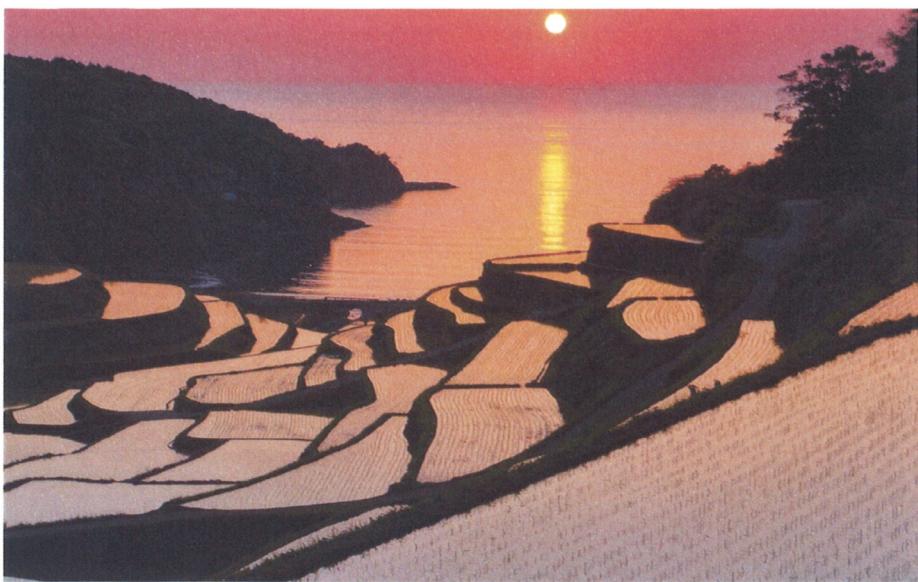
スとか言われていますが、この地方では正式な名前はなく、「ちっこを固めたもの」と呼んでいました。それを「あんご通信」で紹介するときに「チツコカタメターノ」とし、今はそれで通っています。

メニューには、それをふんだんに取り入れ、どれも千枚田でなければ食べられないものになつたと思つています。

ごんべいでは当初より古民家の畳敷きの和室を使い、地域の食材や調理法で鴨川ならではの和食の提供を目標にしてきました。今回、江戸時代中期の天明のお膳と食器が手に入りました。畳の部屋で銘々膳で地域の個性的な文化を提供することに意義を見い出し、私たちも忘れていきそうな日本食文化を再現し、提供していくことを考えました。昨年より試験的に予約での提供をしてまいりました。

昭和の初期までは結婚式などの祝い事や葬儀なども自宅で行つており、お膳での食事の懐かしさを感じる方も多くいます。地域の習慣や食文化を念頭に置きながら畳の上での食事にこだわっていきたいと思います。

玄海町浜野浦の棚田

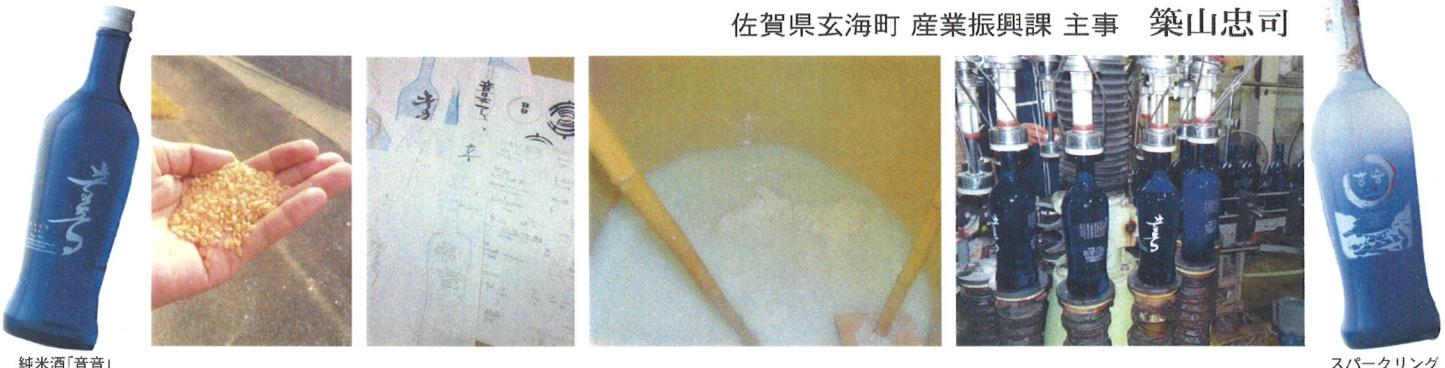


玄海町はふるさと納税により平成20年度の制度改正から平成27年度の間、ありがたいことに町内人口の15倍に当たる約8万人の方から寄付をいただけます。ふるさと納税をすることによって、玄海町の特産品PR、生産者の所得向上を目指すことが当時の目的だった本町としては、ふるさと納税で特産品が注目されたことで生産者の所得向上から一歩進んだチャレンジができるようになりました。

当時、「自分が扱う棚田米をもつと知つてほしい。いいものをつくっている

## クラウドファンディングで誕生した棚田米酒

佐賀県玄海町 産業振興課 主事 築山忠司

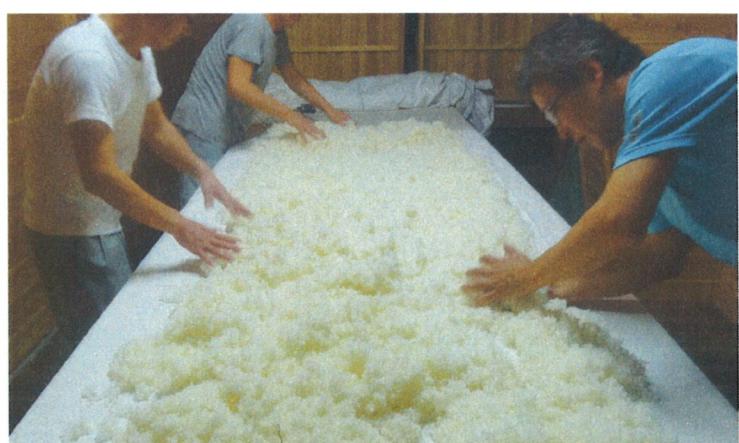


自信はあるが、売り方やPRの仕方がわからない」という生産者からの声がきっかけとなり検討した結果、「町の特産品には、お酒の肴としてセットでPRすることで効果的なものが多いこと、棚田米という食用米を使った新しい町の銘酒ができることで町内のおもてなしや食用米の新しい表現方法が増えること」等の提案を行ったところ、生産者には、その提案を理解し賛同していただきました。

生産者の目線で生産者の自主性を尊重しながら事業を実施していくことが可能となつたことで、玄海町産日本酒の製造という企画がスタートしました。ふるさと納税の寄付者は関東圏が7割であったため、首都圏在住の情報発信力が強く流行に敏感な人をターゲットに絞り、玄海町の課題に対しても、「美しい棚田でとれた、美味しいお米でお酒をつくる!」という事業への寄付を

ふるさと納税の一環の手法であるで『クラウドファンディング』により募り資金調達を行うこととしました。他の自治体ではまだ珍しかったクラウドファンディングで話題性を獲得し、粒の小さい食用米を磨いてつくるお酒の苦労、お米の収穫から瓶選び、銘酒の行程までフェイスブックにて情報発信することで寄付者に自分が町作りに参画して玄海町と繋がっていることを実感でき、フェイスブックでの情報拡散が進んだことで、ふるさと納税ボーナスもできました。

タブルサイトでも大々的に取り上げていただいたことで効果的に取り上げてRもできました。



今回の銘酒作成では、寄付をいたしました方約100名と銘酒ができるまでの約1年間お付き合いができる、最終的には町の銘酒を御礼の品としてお送りしてとても喜んでいただきました。毎年、特別純米酒とスパークリング酒、合わせて約5000本製造しておいた玄海町内の小売店でお求めできます。今後は、約3年間の製造・販売実績から当初計画から再検討を行い、お求めとなります方の要望やふるさと納税の情勢により、皆様が満足して頂けるようにかたちを変えながら『音音』の生産を続けていく予定となつております。



竹の棚田は、標高280~420mの中に1haが拓かれている。約400枚。家々は、棚田の中に点在する。石積みは、江戸時代に築造のものや明治時代のものなど年代がさまざまという。なかには室町時代ではないかといふ「鏡積み」(見せる)ことを意識した積み方)まであり、今後は石積みを紹介し、さらに棚田の魅力を高めていく

峰村は九州北部豪雨に見舞われた。それが長く降り続いたわけではない。が、時間雨量は100mmを超えた。村最高峰844mの釣廻岳をはじめ、山々に囲まれている東峰村。そこで記録的短時間豪雨。方々で土砂崩れが起きた。山の樹木が土砂とともに一気に斜面をすべり落ち、河川へなだれみ、スギなどの倒木が橋という橋を壊し、甚大な被害が何キロにも渡った。

あの日から7ヶ月が過ぎた2月。村はこの日も復旧復興に向けて多忙の中についた。そして、日本の棚田百選認定の竹地区では、古民家ゲストハウス計画が進んでいた。全国公募のコンペティションで設計者を選ぶ。全国から106件もの応募があつたという。

うかがつたとき、ちょうど6社が1次審査を通過したところだった。3月半ばにはプレゼンテーションによる最終審査で設計者が決まり、この夏には施工がはじまる。新たな顔を見せる東峰村を訪ねた。

## 福岡県東峰村 棚田の集落に古民家ゲストハウスを!

取材・文: 石井里津子



キャンプ場にある築20年ほどのコテージもリニューアルさせ、竹地区で管理運営する。こちらはリーズナブルな値段で泊まれるとか

小石原焼でも名高い東峰村。旧小石原村エリアには、約50もの窯元がいまも新たな作品を生み出している

村内では、災害によって河川がえぐられ、9万年前の阿蘇の噴火で倒れた木が生木に近い状態で出てきた場所も(木はブルーシートの中)

2017年7月5日から豪雨に見舞われた。昼頃からの雨が21時過ぎには総雨量743mmを記録(写真:東峰村役場)

### 村内の宿泊施設が壊滅して

「昨夏の豪雨で、村内の宿泊施設が壊滅状態になつたんです。今、村では料理が出て泊まれるといった宿泊施設がないんです」

東峰村役場企画政策課の梶原孝司さんが話す。夏までは、廃校を利用した農村ツーリズムの宿があり、そばに1軒の民間旅館もあつた。その両方ともが、同斜面の大規模な土石流で壊滅した。

竹地区への移動中、農村ツーリズムの宿「ほうしゅや舎」の看板が目に入つた。車を降り、山の斜面を切り拓いた小学校跡地へ、ちょっとした坂道を登る。目に飛び込んできたのは、大小の岩が混ざつた土砂と巨大な瓦礫の光景だつた。講堂が建つていたというが、姿はなかつた。その上にあつた弓道場も、渡り廊下も校舎の半分も、形を失い、巨大な瓦礫になつていて。破壊力のすさまじさに圧倒され、自然の荒ぶる脅威に言葉を失つた。

「こういうときだからこそ、やらんといかんつて地元が言ってくれたんですね」と梶原さんが話していた言葉を思い出す。「ゲストハウスの話は、2016年から進めていました。竹地区は豪雨の際に集落の上にある砂防ダムによつて甚大被害とまではなりませんでしたが、何ヵ所も崩れ、土砂も流れ込んでいます。ですから地元に、このプロジェクト(\*)をこのまま進めるべきかどうか聞いたんです。そうしたら、こういうときだからこそ、やろうと」

### 「災害復興の旗印に」

竹地区でも出んぼがえぐれるなど耕作面積9haのうち2haが収穫できなかつた。だが豪雨の翌日、「てっきり流されてしまったと思った」棚田の石垣は崩れず、緑の苗が残つていた。「この地域は生活基盤が壊滅したわけじゃなかつたから」前進できたと地元は言う。こ

うして気持ちが固まつていつた。とはいえば地区では最初、ゲストハウス構想に乗り気だつたわけではない。「やつてみませんか、ゆうて役場が話を持つてきたときは、ゲストハウスちゅうもんがどんなもんかわからんしちゃん形が見えてきて。このままだと過疎化が加速してしまう。こういう時期だからやってみようと思つたね。災害復興の旗印の気持ちもあります」

竹地区「棚田景観保全委員会」の前会長、梶原光春さんが言う。

ゲストハウス計画はただ、古民家を改築し、宿泊施設を1棟設けるだけの話ではない。集落全体で棚田を生かした新たなビジネスに取り組む3か年計画のプロジェクトだ。物産加工販売所も建設し、ケータリングサービスも行うほか、観光地としての整備や体験などのプログラムの構築まで視野に入れた総合計画である。

ちなみに、棚田は村全体にあり、どの集落も高齢や過疎という同じ問題を抱えている。村の中でなぜ竹地区だけのか。役場の梶原さんに素朴な疑問をぶつけてみた。

\*九州北部豪雨災害 東峰村への義援金送り先: 義援金受入口座(他口座も有り。役場HPで確認を)  
【ゆうちょ銀行】

口座名義: 東峰村豪雨災害義援金(トウホウムラゴウウサイガイギエンキン)  
口座番号: 00980-4-209956

\*「棚田景観保全プロジェクト」総合計画(3ヶ年)を東峰村では打ち出している。地域が自立して棚田の景観保全が可能となる地域づくりを目指すもの



麻校舎を利用した農村ツーリズムの宿「ほうしゅ楽舎」の2018年2月22日の姿



釣迦岳(844m)と大日岳(830m)を背にした竹集落でも高み(360m付近)にある築120年の古民家を改築してゲストハウスにする。家の周囲もプランニングされる



岩屋神社。547年、岩屋に光って降ってきた石を「宝珠石」と名付け、ご神体とした神社。見ると目が潰れるといわれ。いまだ見た人はいないそう。隕石だろうという



竹地区「棚田景観保全委員会」6代目会長伊藤英紀さん



「棚田景観保全委員会」前会長で村会議員の梶原光春さん

## 「棚田景観保全委員会」発足19周年

「ここは、モデル地域です。ここで成功してほかの地域へ波及させたいんです。竹地区は、日本の棚田百選になった時に集落で組織を作り、棚田保全を進めてきました。こうした組織があることもポイントでした。農業体験イベントの実績も長く、地元が独自に立ち上げた棚田にあかりを灯すイベントも続いていて、集客力もあります。

ほかにも、奇岩や岩屋神社など集落内に観光資源がいくつもある。そばにキャンプ場もあり、ゲストハウスも1棟だけではなく、このコテージ7棟もりノベーションして、集落で同時に運営管理していくよう仕組みも変えろんです」

### 明日に向かって

「ここは今、棚田だけで何もないでしょう。小さな物産館のようなものでもあれば、交流人口が増えますよ。コーヒー一杯でも飲めたり、立ち寄つてく場所があれば、この棚田が持つ400年の歴史なども説明できます。まずは仕組みがないと。ゲストハウスのお客さんが滞在して楽しめるようこんなやくやそば打ちなどの体験プログラムも用意しますよ。魅力がないと来てもらえませんからね」

竹地区は約70名余が暮らす。小学生は2人。集落の最年少は小学4年生という。旧宝珠山村のこの地域は、伝統的な農山村エリアだ。平成の合併で統合した旧小石原村は焼きものの郷。小石原焼で知られ、後継者は比較的多いという。農山村の宝珠山地域は、兼業農家が多いものの、近年は望む職がなく、若い人は出ていく一方だった。

だが、ゲストハウス運営を核にケタリングや軽食処、加工・物販などが

展開していく、雇用も生まれ、帰ってくる人、また新たな参入者も期待できるという。現に、ゲストハウスの運営の中心になってもらう地域おこし協力隊も募集中だった。



今、新しく経済活動で地域の問題を解決をする「地域住民によるソーシャルビジネス」が棚田の集落を変えようとしていた。

同時に、荒廃地にたとえば黒豆やそばを植えるなど新たな食の模索もはじまる。軽食処やケータリングのメニュー開発、さらには周辺木々の伐採や散策コースの整備なども進んでゆく。

目前の6月には、10周年を迎える火祭りイベントだ。棚田に1200本のあかりを灯す。田植え後の水張りが美しい夕げ、水面に灯りが揺れる幻想的な空間が広がる。その翌日には、19年の田植え体験で棚田が賑わう。

今、新しい経済活動で地域の問題を解決する「地域住民によるソーシャルビジネス」が棚田の集落を変えようとしていた。

「火祭り」は毎年6月の第2土曜の夜に行われる。灯りは菜種油を空き缶に入れて灯している。空き缶と鉄筋の棒を針金で固定し、畦にぐるりとさす。経費もかかるため、現在は協力金でワンコイン(500円)をお願いするようになった(写真:東峰村役場)

棚田をめぐる  
人たちがつくりた  
棚田をめぐる  
自著紹介

2017年は棚田をめぐる本が  
複数発行されました。著者・  
編者がその背景や思いなどを  
直接紹介します。

日本の棚田百選を含む全国の美しい棚田212

## 『全国棚田ガイド TANADAS』

中島 峰広 監修/NPO法人 棚田ネットワーク 編



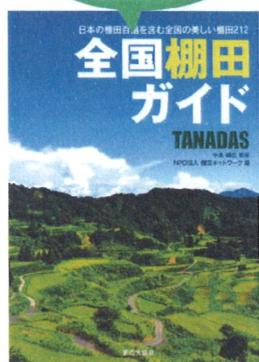
昨年9月に発行された本書は、棚田ネットワークの20周年記念事業で、会の総力をあげて制作した活動の集大成です。また本書は、全国各地の棚田地域のご協力がなければ決して完成しませんでした。その意味では、1995年の棚田ルネッサンスから保全に熱意を注いできたすべての方々の汗の結晶ともいえます。

専門書ではなく、広く一般の方に棚田の魅力を知っていただき、より多くの方が棚田へアクションができる未来志向のガイドブック作りを目指し、一般書店や図書館への流通、オールカラー、アクセスマップなどにこだわりました。

「日本の棚田百選」の134ヵ所のほか、「景観が優れている」「保全活動が盛ん」「希少性がある」などの理由から厳選した合計212ヵ所の棚田を紹介しています。棚田地域の特色、棚田の成り立ちや保全の取り組み、棚田の大きさや枚数、耕作率などの基本データ、イベント情報や観光・宿泊、特産品情報も満載です。棚田のバイブルとして広く活用いただければ幸いです。

(認定NPO法人棚田ネットワーク 事務局長 高桑 智雄)

棚田支援を  
続けて来た  
棚田ネットワークに  
よる全国の美しい棚田  
212か所の紹介!



□A5版 320ページ  
□定価:本体2,500円+税  
□発行:一般社団法人 家の光協会  
【購入はこちら】  
<https://tanada.or.jp/guidebook/>

## 『ミュージカルへのまわり道』

石塚克彦著・イラスト/英 伸三写真/ふるさときやらばん出版する会編



昨年末に、石塚克彦メモリアル出版『ミュージカルへのまわり道』を刊行いたしました。本書は劇団ふるさときやらばんの季刊誌に「MUSICALへのまわり道」として40回にわたり石塚が、連載していたものを編集し最構成したものです。

1幕~4幕構成でとくに4幕では、石塚が1995年に全国棚田サミット開催を説いて歩いた顛末や脚本・演出家という仕事を超え、棚田保全を広めていった経緯、そして棚田地域を取材して作品が生まれていく過程も語られています。イラストや写真、各界からの寄稿文とともに楽しんでもらえるような構成にしました。

〈読んだ方からのメールや感想〉 「読みでがおおいに有りますよ。」「石塚さんてなかなかの人物だったんですね。」「タイトル毎に読み切りになっていて読みやすい。楽しみながら読んでます。」「久しぶりに良い本に出会いました。本当におもしろく、何か懐かしく、日本人が失いつつあるものを見せて貰ってる感じです。とても感心、感動してます。」(ふるさときやらばん出版する会 ひらつか順子)



全国棚田サミットや  
本協議会発足に奔走し、  
棚田ブームの火付け役  
となつた脚本家の  
エッセイ!



□四六版 575ページ  
□定価:本体3,500円+税  
□発行:農山漁村文化協会  
【問い合わせ先】  
[ishizuka@right-road.net](mailto:ishizuka@right-road.net)

# 『棚田の保全と整備』

木村和弘著



春を待つ名勝の姨捨棚田・姫石地区。ここでは、荒廃化した棚田を復田し、道路の新設やバイパスによる用排水システムなどの整備が行われている。整備された地区が、名勝に指定された

棚田では、保全と整備がしばしば対立する。未整備の棚田を整備しようとすると、「棚田の破壊だ、景観の破壊だ」との声があがる。整備する側は荒廃化への危機感を強め、両者は対立する。この対立は棚田の現状や整備の内容が知られていないことから生じる。この解決方策を示すのが、本書の目的である。

まず、荒廃化の実態と発生メカニズムを明らかにし、対応策として整備の意義を示す。そして、保全と整備が融合して維持される姨捨棚田の例を紹介し、棚田の整備方式を示す。整備方式は一つではない。景観を保全する整備、部分的な整備、圃場整備など特色ある整備方式が開発されている。各整備方式を、保全の目的に合わせて導入する「ゾーニングに基づく整備」を提案し、実践例を示す。

さらに、棚田の景観は、耕作者の維持管理によって得られるもの。棚田での安全な維持管理の方策を提案する。作業環境の改善なくして保全はできないと主張する棚田論である。(信州大学名誉教授 木村和弘)

棚田を保全していくため、  
ほ場整備のあり方を  
追求し、実践例などを  
まとめた一冊!

## 棚田の保全と整備



木村和弘著

農林統計出版

□A5版 193ページ  
□定価:本体2,300円+税  
□発行:農林統計出版

# 『案山子の詩』

上野裕治著



アート好きな熊の家族(2013年)

昨年棚田サミットが行われた長崎県波佐見町ほか全国各地でカカシ祭りが行われているように、棚田とカカシの風景は村おこしや地方活性化という視点から一定の効果を上げているように思う。しかし、これらのカカシは短期間道路沿いに立てられているものが多く、本来の棚田とカカシという風景とは一線を画しているのも事実だろう。一方、カカシは古く古事記の世界から登場するが、古来よりカカシが本当に鳥を追い払う役目をはたしているかというと、どうもあまり効果はないようだ。ではなぜみんなカカシを立て続けてきたのか。

本書はこのような背景から、カカシの歴史や存在意義を探るとともに、筆者が学生たちと制作してきたカカシの記録をとりまとめたものである。ここに登場するカカシたちは、田植えから稻刈りの間、田の中に立ち、「カカシは農民の友である」という新たなコンセプトに立脚している。これからカカシを立てたいという方にはぜひお薦めしたい。(元長岡造形大学教授 上野裕治)

オールカラーの  
写真ブック。  
棚田に新たにのちを  
吹き込む案山子アート  
の提唱!



□A5版 65ページ  
□定価:本体1,800円+税  
□発行:新潟日報事業社

# 『千年の田んぼ』

国境の島に、古代の謎を  
追いかけて』 石井里津子著



見島の「だん飾りの田んぼ」(=棚田)の風景から。島には最大で約100haの田んぼがあったが、現在は荒れているところも増えた

農村を取材し続け、  
『棚田ライステラス』も  
20年担当した著者が  
離島の田んぼに  
見た世界!



□四六版 191ページ  
□定価:本体1,500円+税  
□発行:株式会社旬報社

\*毎日新聞書評(2018年1/28)、中国新聞  
日本農業共済新聞などで紹介

# 信州の村で、雪と棚田

## 長野県小谷村

あたりむら

### いざ、雪の棚田へ行かん！

「長靴をどうぞ。以前、棚田オーナーさんに貸し出していた長靴です。今はもう持参してもらっていますけれどね。足が、がぶらない（沈まない）。」ように、これ履いてください。

平間全体で田んぼは42haほど。そのうち18ha（枚数にして14枚）がオーナー田だという。減反政策で、田んぼにキハダを植えたという。ナラやブナの雑木が棚田のあいまに生えているが、これは自然林。この冬、雪が少ぬめで通常2mの積雪が1mほど

進んでゆく。

山の斜面の雪原は、丸みを帯びた段や起伏を呈している。雪面から今年は少なめで1mほど下だという地面の様子は、その形状から想像するしかない。だが、道のなか田んぼなのか、さっぱりわからぬ。

「あつちが棚田！ そこは畠！」

吉澤さんが大声で教えてくれる。雪は厳しさも突きつけるが、晴れた日の雪の棚田の美しさは格別だ。小動物の足跡が一筋ついただけの棚田の雪原に足を踏み入れる快感といったら……。

雪の恩恵は、豊富な水源となり、山に蓄えられる。平間の棚田は42aほどだが、4km先と7km先に2つの水源を持つという。山の上方を吉澤さんが指さす。

「ここは全部、山腹水路よ。だから、水路が山の土砂崩れで埋まつたり。管理がたいへん。人数が減るなかでやつていくからね。水は、棚田へじわじわしみ出してくる。耕耘が深くて機械が落ち込んで使えないし、人も膝まで埋まる。沼

けれども、標高700mの風は冷たい。助けてもらって、なんとか棚田の現場（平間）へ向かう。平間集落の農家、吉澤信男さん（68）と

山田さんは、長靴のままザクザク

田ですよ

水路の多くは明治以降のものだという。村でもっとも古い「土谷堰」で1860年開削。標高884mにその取水口があり、そこから水路が8km続く。こうした水路は、村に点在する棚田ごとにある。

豪雪地帯であり、豪雨災害にも多く見舞われた小谷村は、地滑りと土石流で山腹水路がなんども崩れては、その都度直してきた。

村の中谷大宮諏訪神社の例祭で奉納される奴踊りの作詞は、毎年世相を反映させ、中谷集落が手がけるものだが、そこに村の人と自然とのかかわりが見て取れた。

「雪解け遅く猛暑夏で地割れ地滑り 水路も断たれ 田畠の作付け遅れがち 氏神様のご利益で秋の実りは豊作よ」（平成27年奴唄より）

小谷村は長野県の最北西端にある。北アルプスの北端の麓だけに雄大な自然を抱えている。白馬岳2932mや白馬乗鞍岳2437mが南部に鎮座し、その東側に広がる梅池自然園は、尾瀬などと並んで日本有数の湿原地帯だ。

「半日村ですよ。V字の渓谷ですか？」自嘲気味に山田さんが言う。急峻な山々と、村を南から北へと流れる姫川が形成した、美しくも険しいV字の谷。人々はその谷底や、急な山の斜面に集落をつくってきた。

人口は約2800人。集落は

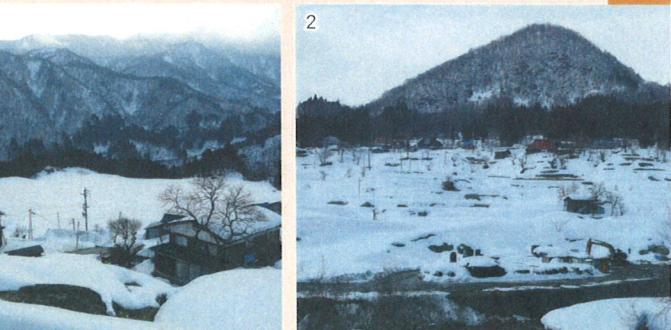
53。空き家も増え、3軒で1集落のところもある。  
温泉の数は多く、泉質は多彩だ。  
姫川温泉、小谷温泉、梅池高原の湯など15箇所以上ある。ちなみに

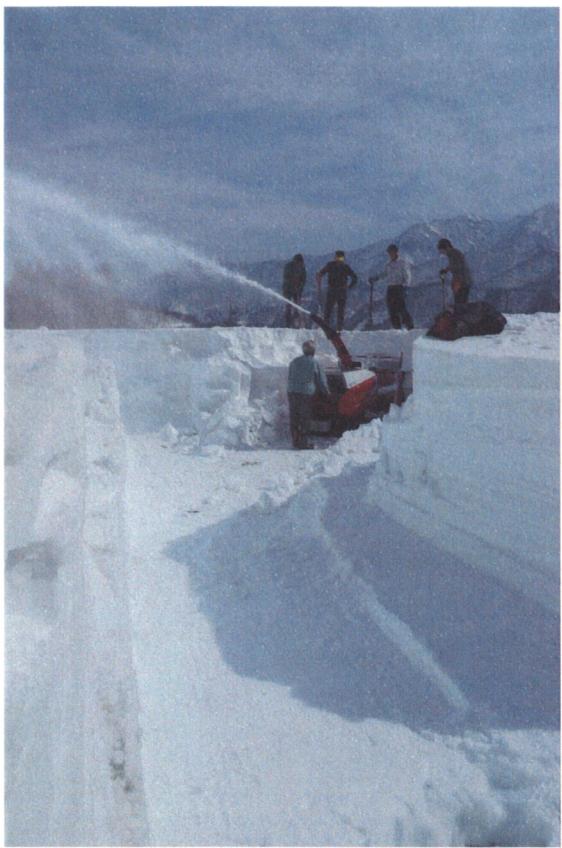


鉄道の駅は、5つ。信州松本と新潟糸魚川を結ぶJR大糸線がある。かつて日本海側から小谷村を通り、塙を運んだ「塙の道（千国街道）」も松本城へと続く。

毎年5月3日には、「塙の道祭り」で4000人が山の中に残された古道を歩く。さらに年間を通して観光客は、90万人を超えるとした。冬場のスキーリゾートや夏場のトレッキング、紅葉散策や

道の駅の来場者数などを考慮する。  
1 : 小谷村でも日当たりが良い山の曾田集落の棚田。ここでは、かんじきなしで棚田を歩けた。春が近い朝、解けた雪の表面が固まって雪の上を歩くことができる。「のらが凍る」という。2 : 南向きの石原集落。トタンをかぶせたかやみの家の佇まいがいい。3 : 5haに400枚の「たなんぼ」だった深原も整備をして耕作が継続。4 : 梅池の田んぼには、だれかが足跡をつけての田んぼアートを残していた





白馬乗鞍地区で実験的に行なった雪中キヤベツ掘り。植え付けた森川昇さん（左下）と地域おこし協力隊員たち。役場の山田さんも助つ人に。（右下）。除雪機を見事に扱うのは平間の吉澤さん

目に飛び込んできた。実は荒れ地ばかりという。雪は荒廃田も覆い隠す。山田さんが説明してくれる。「だんだんに見えるのは、農地の名残ですよ。南向きで日当たりはいい田んぼなんですが、急すぎて荒れ地が増えました。ほ場整備しないといいところは耕作されていないんです」

小谷村は、水を独り占めしないよう、同じ団地内でもいろいろな場所に田んぼを散らして持っているのだという。そのため、やめてしまう人が出ると水利がうまく

金にならなくなり、耕作放棄の引き金になっていく。

こうした放棄を防ぐためにも、ほ場整備は欠かせない。てんてばらばらに持っている田んぼを換地し、まとめることが可能になる。5haをほ場整備したという北小谷エリアの深原集落へ向かった。土地改良事業を導入し、平成17・18年に整備した。

「整備前は、ここに400枚。小さい田が集まつた農地でした。『たなんぼ』と言われる地域です」

——どうして『たなんぼ』？

「小さい田がたくさんあつたことから、言われるよくなつたのでないかと思いますね」

つまり、田がなんぼもあるつてことですか……と言つたものの、あとで考へると「棚ん圃」なのかも、とも思う。

「中山間地域等直接支払制度のおかげで、ソバを植えたり、荒れたところが復活するようになります。ただ、狭いところは不便ですね」

山田さん自身の集落、池原では約30戸が集落営農を立ち上げたといふ。みんなで荒れた農地を復旧し、米やソバを作付けするようになつた。10年程前からは学校給食にも米を収めている。

「農地は、農地として残しておかないと、いつにもう元には戻らない。農地を維持するのは、災害防止などいい効果がたくさんある。ですから将来、村営といった形で、良い農地は維持しておかなといいいけないと思うんです」

山田さんの言葉は重かつた。

### 伝統と現代が共存する村で

さらに、スキー場へ連れて行つてもらつた。白馬コルチナ国際スキー場だ。小さな集落が点在する村の伝統的な姿に対し、1500人があつまるという巨大リゾートホテル。この両極端な小谷村が見せる顔に、正直度肝を抜いた。

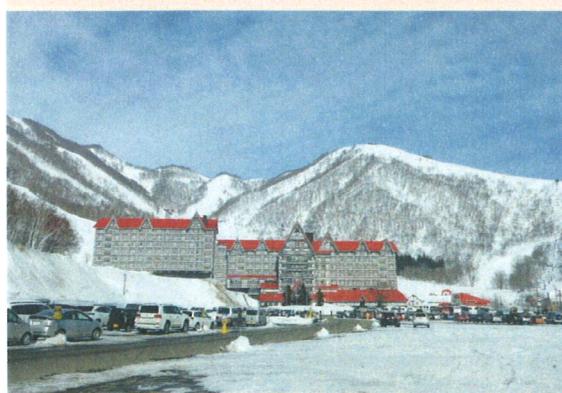
「ここ5～6年、外国人のお客さまが急増しています。オーストラリアの方が中心ですね。やはり日本のパウダースノーが魅力のようです。最近になってアジアの方も増えてきます」とスキー場のアンダントマネージャーさんが話していた。

村には3箇所のスキー場があり、ほかに梅池高原エリア、白馬乗鞍エリアといったスキー場や観光ゾーンを抱えている。近年の小谷村の冬は、スキー関連の仕事で多くの人が暮らしてきた。冬の収入を軸に、夏に農業を営む人も多かつた。

伝統的なものと新しさとの、雄大な自然と細やかな生活文化。両者が共存するからこそ、人は小谷村に魅了される。白い雪原の下、緑の農地が顔を出すのももうすぐ、新しい春が来る。



「道の駅 小谷」は新潟県糸魚川市に向かう国道148号線沿いにある。ここは、温泉も、かまど炊きの小谷米が楽しめる食事処も併設した物産販売所。年間3億円の売り上げがある。「小谷杜氏」仕込みとして名高い小谷の酒も豊富。また、獣害との闘いも生かしての商品化も進む



平成元年オープンのコルチナ国際スキー場。2018年9月の全国概況サミット時にはここで夜の大交流会が開かれる予定

たという。今、日本全体の人口低迷の時代、新しい模索は必須だ。

伊折集落で取り組む「雪中キヤベツ」もそんな一つだろう。通常

なら雪が降り始める前に収穫すべくキヤベツだが、あえて残す。通常が積もり、根を張つたままのキヤベツが雪の下で熟成する。雪の効果で、ぐつと甘みが増すのだ。

ちょうど白馬乗鞍地区で、実験的に植えた雪中キヤベツを掘り出すというのを見に行った。なんと、ここは2mもの雪の下。地域おこし協力隊も参加して、除雪機とスコップでの大奮闘。しかもこの季節、雪は堅くしまつてきている。手こずつていた。

1時間以上かけ、キヤベツを発見。緑色が白い雪に映える。が、玉になりきれていなかつた。

植え付けをした森川昇さん（白馬乗鞍集落支援員）が言う。作秋キヤベツが玉になる前に、一気に雪に降られてしまつたのだ。一口食べさせてもらつた。甘い。ジューシーだ。

ちょうどどこ一帯は、ほ場整備が秋に終わつたところだという。新しいほ場を生かし、村の新しい特産品を作りたいと森川さんや地域おこし協力隊たちは意気込んでいた。

伝統的なものと新しさとの、雄大な自然と細やかな生活文化。両者が共存するからこそ、人は小谷村に魅了される。白い雪原の下、緑の農地が顔を出すのももうすぐ、新しい春が来る。

●1日目メインイベント(予定)●  
(10:30~12:00)

【小谷村事例ディスカッション】  
①山間地農業を担う集落活動  
②交流から広がる小谷応援団

●1日目分科会(予定)●  
(13:30~16:30)

- ①山間地で育む～女性たちの村づくり～
- ②農村の暮らし～小谷の人々～
- ③小谷村を応援する  
棚田オーナーは仲間の集い
- ④圃場から見る農業政策(信州大学)
- ⑤山間地農業と生態系(東京農業大学)
- ⑥棚田まもりびとミーティング
- ⑦世界の傾斜地農業を語ろう
- ⑧アラヤシキの住人たち～トークショー～

# 第24回全国棚田サミット IN 小谷

## 2018年9月8日(土)~9日(日)開催

テーマ:「集う」仲間と「守る」暮らし  
～北アルプスの水と土で育む棚田の絆～

長野県  
小谷村



●2日目北アルプスめぐりツアー(予定)●

- 白馬山麓めぐりコース
- 雨飾高原森林セラピーコース
- 梅池自然園コース
- 塩の道散策コース
- 土木アート砂防ダムめぐりコース
- 小谷田んぼめぐりコース



工夫した服装で棚田米の試食を勤める様子



全国棚田(千枚田)連絡協議会のステージ

工口プロ2017  
昨年の12月7日(木)~9日(土)  
東京ビックサイトを会場に「工  
コブロ2017」が開催され、  
当協議会を含めた14団体が「日  
本の棚田展示コーナー」で出展  
しました。  
また、今回初めての企画とし  
て全国の棚田にまつわる酒の特  
別試飲ブース「棚田・里山酒  
の陣」を設け、試飲希望者が行  
列となり、大変人気の企画とな  
りました。  
平成30年度も引き続き工コブ  
ロは開催される予定となってお  
ります。是非皆様の地域や棚田  
をPRする絶好の機会として、  
来年度も多数の団体の出展をあ  
頼いします。

会員の皆様におかれましては、  
今後とも当協議会の運営に更な  
るご理解とご協力をよろしくお  
願いします。なお、当協議会事  
務局は4月より長崎県波佐  
見町が担当することになり  
ます。1年間大変ありがとうございました。

事務局一コース

事務局・  
新潟県佐渡市  
からのお知らせ



「棚田・里山 酒の陣」コーナーには様々な地区のお酒が  
並んだ。試飲希望者が続出

# 重要文化的景観に「奥内の棚田及び農山村景観」が選定

松野町教育委員会教育課班長 高山 剛

奥内地区的遊鶴羽集落

愛媛県北宇和郡松野町は、四国山地の西南部にあって、周囲を鬼ヶ城山、三本杭、高月山などの標高1000m級を超える鬼ヶ城連山に囲まれながら、四十万十川の支流である広見川と黒川の流域に開けていく。

奥内地区もまた、山地地形の典型で、広見川支流の奥野川、

さらにその支流である奥内川と

そのまた支流群の流域に位置し、

周囲を500～600m級の急峻な山並みによって閉ざされた空間に形成されており、3つの谷に遊鶴羽、下組、本谷、複合の4つの集落が展開している。

「奥内の棚田」としては、平成11年に日本の棚田百選として認定を受けていたが、平成23年度からは文化的景観調査事業に着手し、その結果棚田としてはもちろん、その周辺を取り巻く

農山村景観としての奥内地域の新たな価値や特徴が判明した。まず、本地域の自然環境の特徴として、田は谷に、宅地は尾根に、畑は宅地の周辺と山際に

というように、自然地形のある意味自然のまま利用した立地状況が認められる。また、生物では希少種39科46種を含む234科751種を確認したが、その中には、伝統的方法での棚田営農の継続が要因となつて残つたと考えられるミズマツバやホシクサ、カヤナズミ、ヒメアカネやアキアカネ等が確認できた。

多様な生物相を生み出す背景

としては、山林のうち5割程度

も残存する天然広葉樹林や比較的豊富な降水量に地下の分水嶺

からの流入も合わさった豊かな

溪流水の存在等が考えられる。

集落の始まりについては、弘

法大師伝来の伝説をもつ県指定

天然記念物「逆杖(さかづえ)のイチヨウ」

や五輪塔の存在から中世以前に

遡る可能性を残しているが、確

実には古墓の存在等から江戸時

代中期までは成立していたこ

とが確認できた。また古記録か

らは、複数の集落にまだがるよ

うな分散的な土地の所有状況を

はじめ、一軒あたりの耕地面積

がほとんど変化なく現在にも繼

承されていることがわかつた。

生活・生業面での中心はやはり棚田である。地元採取の堆積岩系統の石材によって整美な石垣を形成しており、最高所は4mを超える。石積みの年代的相違、城郭普請にも通じる技法の存在、過去の災害による巨石利

用の痕跡も残る。なお、棚田経営にとって最も重要な水の確保

について、当初からため池を

所有せず天然の溪流水に頼る形

である点が特徴的で、水に対する信頼もすべての谷奥で現在に

継承されている。

また、以上の棚田に加えて、

耕作地の7～8倍の面積の山野

利用が明治期には存在したこと

も重要な要素の一つと言える。

種類としては、生活燃料、食料

採取地としての「雜木山」、肥料

や屋根材を得る場としての「草

山」をはじめ、「松山」、「櫟山」

(蟻の原料採取)、「伐替畠」(焼

畠)等の存在が挙げられる。

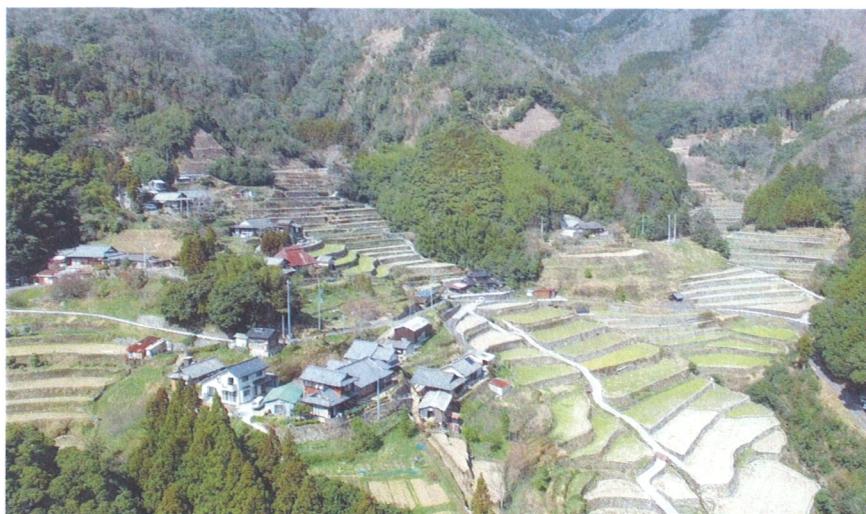
以上のような、自然、歴史、

文化等の要素が、この地域の

景観として評価された。

棚田保全の新しい動きを紹介した今回の特集はいかがでしたか。「超小型モビリティ」「インパウンド」「都市と地元が入り交じったハイブリッド」「スマート・ビジネス」「クラウドファンディング」「ソーシャルビジネス」「古民家ゲストハウス」……。なんだかカタカナのオンパレードに時代を実感です。そして確実に、日本の魅力を発信できる場所として棚田地域が立ち上がってきた感を噛みしめました。

さて本誌は、1995年に協議会発足と同時に発行でした。フリーランスとして、その編集者募集記事を見つけてかかわるようになった私ですが、実際に手がけたのは1997年の長野県更埴市(現千曲市)で開かれた第3回全国棚田サミット(本誌8号)から。娘捨棚田をみなさまと語りながら歩いたのがすごくうれしかったのを思い出します。そこから20年、育てていただきながら、時勢を読みつつ特集を組み、ほかにない情報を届けることを心がけてきました。そして、会員だけを意識した会報紙のスタイルではなく、「棚田保全・中山間地域の活性化のための情報誌」として、現場の声を広く発信できるよう創りあげてまいりました。現在、本協議会では情報発信のリニューアルを検討しています。次なるスタイルへとバトンを引き継ぐ良い機会だと思います。これまでありがとうございました。また、みなさまのお力になれる日がありますことを願って、74号の編集後記といたします。石井里津子



竜王様（水信仰）



逆杖(さかづえ)のイチヨウ



アキアカネ

多くの生物相を生み出す背景としては、山林のうち5割程度も残存する天然広葉樹林や比較的豊富な降水量に地下の分水嶺からの流入も合わさった豊かな溪流水の存在等が考えられる。

集落の始まりについては、弘法大師伝来の伝説をもつ県指定

天然記念物「逆杖(さかづえ)のイチヨウ」

や五輪塔の存在から中世以前に

遡る可能性を残しているが、確

実には古墓の存在等から江戸時

代中期までは成立していたこ

とが確認できた。また古記録か

らは、複数の集落にまだがるよ

うな分散的な土地の所有状況を

はじめ、一軒あたりの耕地面積

がほとんど変化なく現在にも繼

承されていることがわかつた。

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織  
**全国棚田(千枚田)連絡協議会**  
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局  
**佐渡市 産業観光部農業政策課**

〒952-1292 新潟県佐渡市千種232番地

TEL:(0259)63-5117

FAX:(0259)63-5127

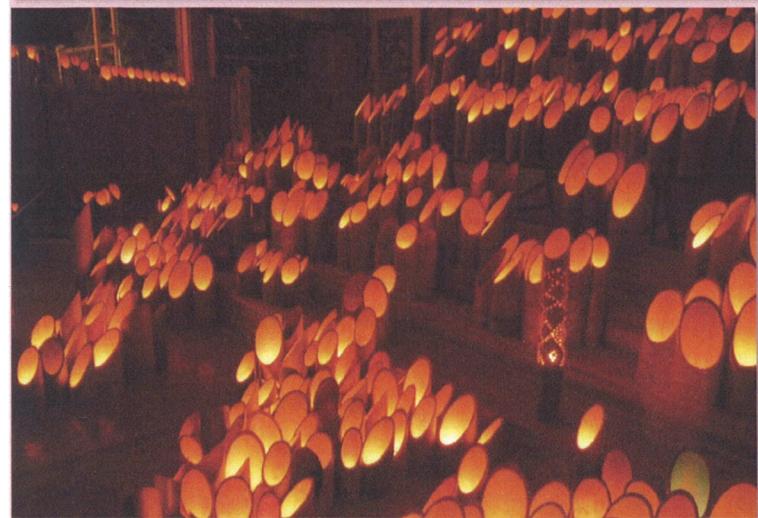
ホームページ：バックナンバーをすべて掲載  
全国棚田(千枚田)連絡協議会 検索

発見!  
棚田演出力  
③

## 甦れ美竹林

## 「岩首竹灯りの集い」

新潟県佐渡市岩首



夏の猛暑が少し気遣いを見せ始めた毎年8月の第4土曜日に、10年前に閉校となり、築70年を超えた旧岩首小学校がある60戸弱の岩首集落は、過疎高齢集落には似合わない若者達の笑い声に包まれる。2007年、岩首に調査研究に来ていた女子大生が、荒廃竹林の再生を願う爺の想いに共感してくれて挑んだ「甦れ美竹林・岩首竹灯りの集い」開催の為に集まってくれたボランティア大学生達の元気な笑い声である。

10年前に初めて開催した時には、あまり興味を示してくれなかつた集落民や佐渡市なども、学生達の頑張りと明るさと行動力、「竹灯籠」の揺らめく灯りに魅了され、今ではすっかり虜になつてゐる。

当初に、全面的に指導・支援くださつた九州大学・島谷教授との約束「継続と進歩」を守り、当初2000本だった竹灯籠も700本になり、昨年で10周年を迎える事が出来た。しかも、近年は住民の意識も高まり、林野庁の公的資金を活用して荒廃竹林の整備に、学生と共に取り組んでゐる。今年で4年目になり、集落周辺竹林を中心に約5haの竹林を整備することが出来た。今まで関わってくれた沢山の学生達と暖かく見守つてくれた集落民、諦めずに付き合つてくれた岩首談義所メンバーに心から感謝します。

次の目標は、「整備された竹林から生まれるタケノコや青竹を何かに加工して岩首の特産品にする!」など夢はどんどんと広がる。出来るか出来ないかではなく、熱い思いを仲間と共に継続することが重要である。近い将来、現在行つている「岩首昇竜棚田散策」のナイトツアーやを開催し、新潟の夜景を見ながら、満天の星空の下で「棚田竹灯り」を開催することを夢見ている。

(佐渡棚田協議会 会長 大石惣一郎)

